

医療安全だより

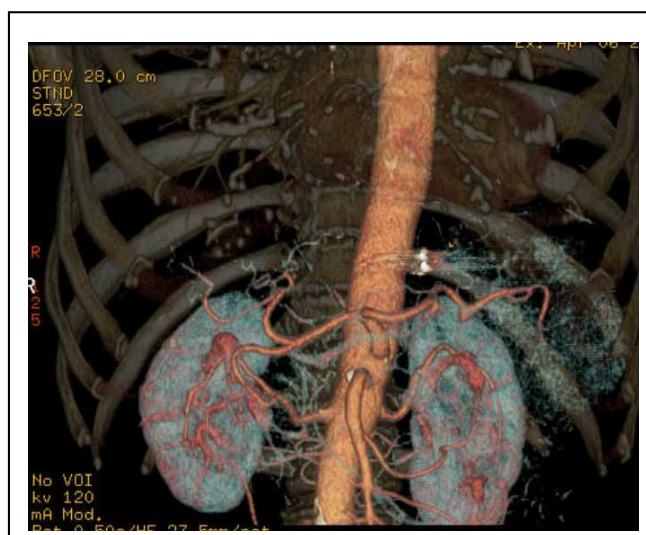
発行2018年2月

VoL. 29

安全に検査を行うために

放射線技術科では、放射線技師、看護師、医師、臨床工学士など検査に携わるすべての職種が参加して、定期的に「患者急変時の対応訓練」を行っています。患者様が検査中に具合が悪くなってしまう場合、様々なケースが考えられますが、迅速な対応ができるようにということで、今回はCT検査中という設定で行いましたので、その様子をご紹介します。

CT検査では、体の血流状態、痛みの原因となる炎症の範囲、腫瘍などがあればその詳しい状態、更には腎臓、尿路、膀胱の様子などより詳しい画像情報を得るために、ヨード造影剤という薬を静脈注射して、検査する場合があります。ヨード造影剤の副作用発生頻度は約1%（当院同意書より）であり、その症状は様々でごく稀ですが重篤な状態に陥る場合もあります。今回はその稀に起こる重篤なケースを想定し、訓練を行いました。



ヨード造影剤を使うとこのような血管と腎臓を描出した3D画像も作成できる

始める前の打ち合わせの様子です。みんなが持っている紙には、模擬患者の状態の経時的な変化と一緒に、各職種の役割が書いてあり、それに沿って訓練が進みます。



訓練を始める前に

訓練に使用するのは訓練用のダミー人形です。実際の検査室に準備します。実際の場所で訓練を行うことで、スタッフ同士の動きなどの確認をします。

心臓マッサージがきちんと出来ていると、ランプが点灯して教えてくれます。



いよいよ訓練開始です。それぞれの役割がわかるように首からカードを下げています。後で呼ばれることになっているスタッフは、一旦部屋の外で待機します。



いよいよ訓練開始

今回はヨード造影剤使用中に急変した設定なので、通常検査を再現し、造影剤注入時に患者様の一番近くにいる看護師が最初の異変に気付きます。CT 担当の放射線技師に知らせて、応援の人員が到着するまで血圧を測ったり、心電モニターをつけたり、点滴の用意をしたり、記録をつけたりと放射線技師が、普段は担わない役割を果たさなければなりません。



放射線技師も看護師の代わりに、慣れない手つきで頑張ります。

当放射線技術科の CT 検査は基本二人の放射線技師で行っており、もう一人が応援の人員を手配します。

救急担当医、看護師、臨床工学士、放射線技師などが応援として呼ばれ、それぞれの役割で救命措置をはじめます。



心臓マッサージ

救命措置として心臓マッサージを行います。1 分間に 100~120 回というペースで胸部を圧迫するので、処置するスタッフは、かなり体力を消耗します。一人 2 分で交代することになっていますが、体力のある男性でも大変だと思います。



2 分後



人員交替のときは途切れない様に次の人は直ぐ後ろに控えて待つ。

2 分後



2 分後



せっかくの訓練なのでいろんな人が体験させてもらいます。

参加者全員でカンファレンス

訓練終了後、訓練参加者全員で上手くできた部分とそうでなかった部分を、各々の役割の立場から、実際の急変時にスムーズな措置が出来るように、また次回の訓練に別のスタッフが参加した際に、より良い訓練が出来るように意見を出し合います。



それぞれの立場から良かった点、悪かった点を指摘しあって、実りある訓練にしようと頑張っています。

今後も放射線技術科内の様々な検査室、多様な状況下を想定し、定期的にこのような訓練を行うことによって、患者様の急変時にも迅速な対応ができ、より安全に検査を行えるよう、放射線技術科員全員で努力していきたいと思えます。

